



特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議 庭園部会(第43回)出席者名簿

日時：令和8年2月20日(金) 14:30～15:30

場所：西の丸会議室

(敬称略)

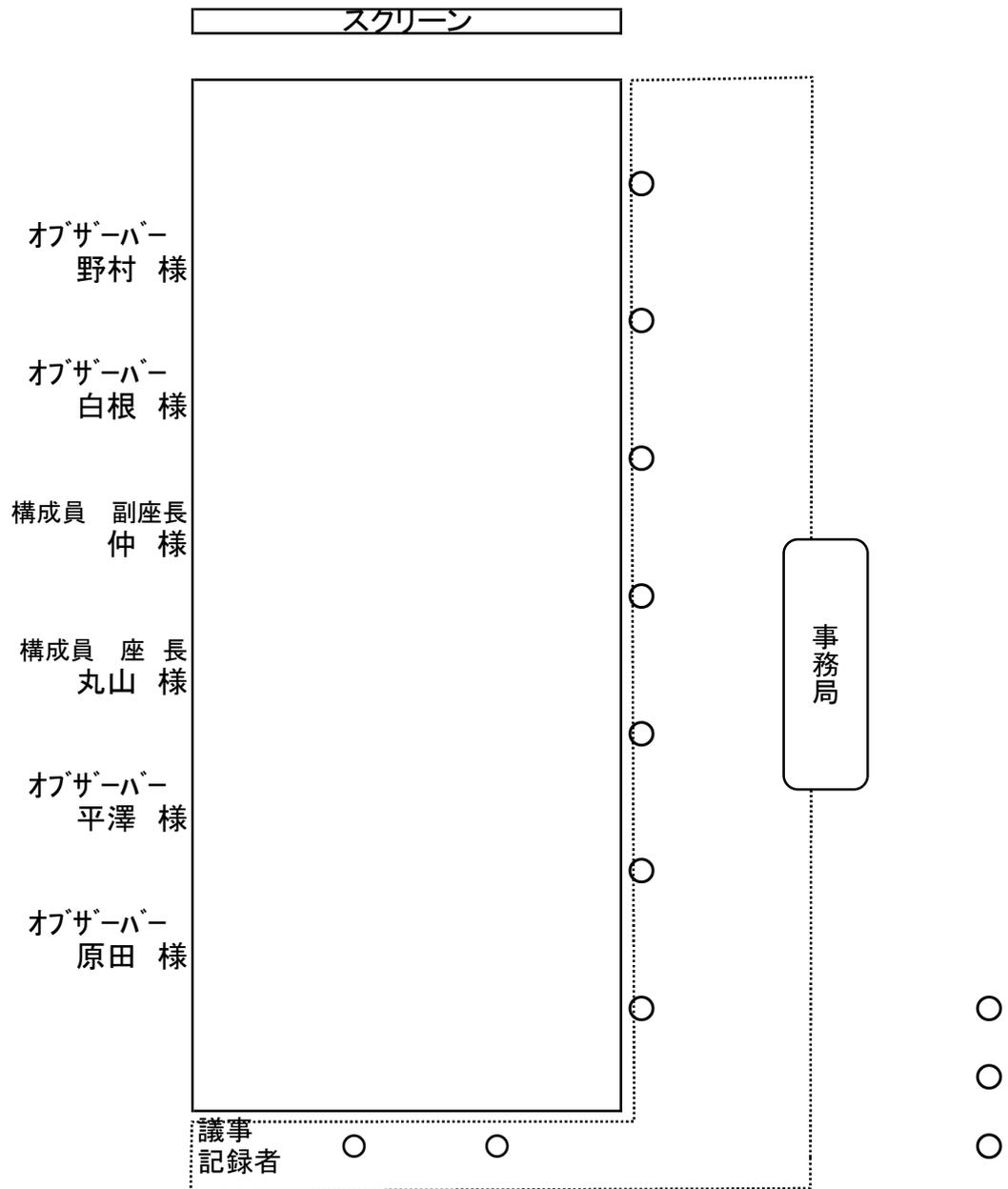
■構成員

| 氏名   | 所属       | 備考  |
|------|----------|-----|
| 丸山 宏 | 名城大学名誉教授 | 座長  |
| 仲 隆裕 | 京都芸術大学教授 | 副座長 |

■オブザーバー

| 氏名     | 所属                         | 備考 |
|--------|----------------------------|----|
| 白根 孝胤  | 中京大学教授                     |    |
| 野村 勘治  | 有限会社野村庭園研究所                |    |
| 平澤 毅   | 文化庁文化財第二課主任文化財調査官          |    |
| 原田 早季子 | 愛知県民文化局文化部<br>文化芸術課文化財室 技師 |    |

庭園部会 第43回 座席表



二之丸庭園の排水計画について

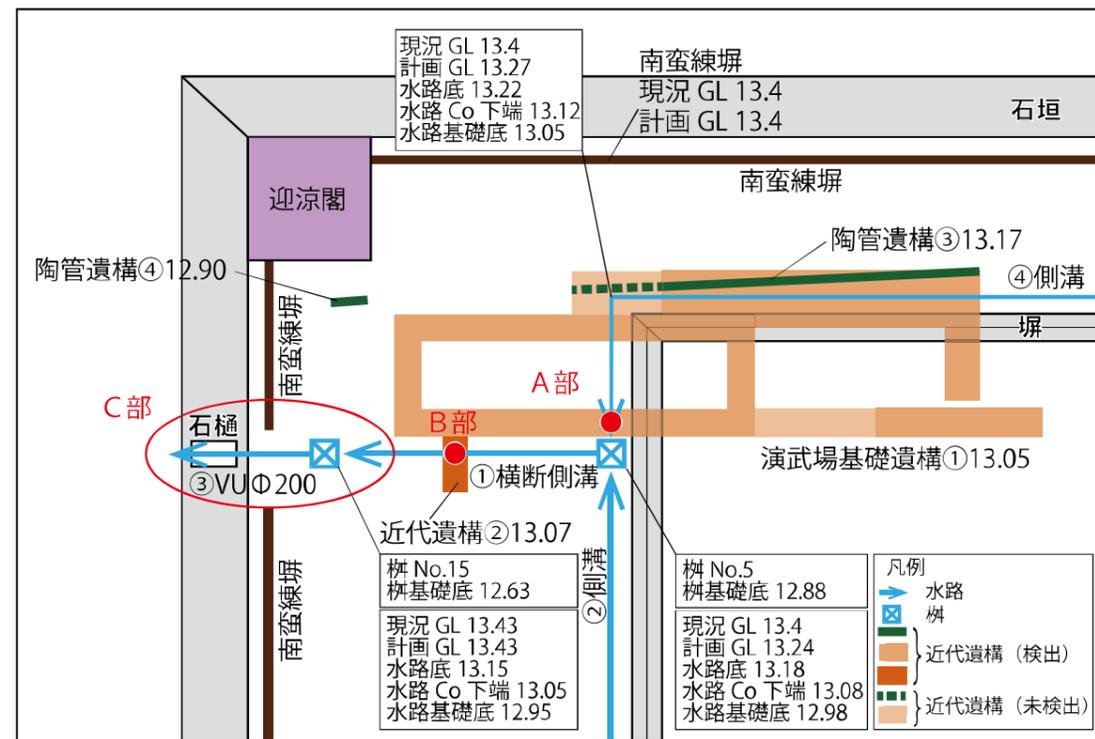
(1) 排水経路及び排水方法の検討

第13次発掘調査結果を受け、二之丸庭園雨水排水計画の見直しを行った。二之丸庭園の北西部に位置するA流域の流末付近に近代遺構が検出され、第42回庭園部会にて提示した雨水排水計画における柵及び側溝の敷設が困難であることが判明したため、排水経路及び排水方法を検討した。

<前提条件>

- ・近代遺構（演武場基礎）が検出された。
- ・迎涼閣は将来復元の可能性がある。（整備基本計画より）
- ・石垣西側上部の南蛮練堀が認められないのは、石樋部のみである。したがって、放流口を設けられるのは、この箇所のみである。
- ・石樋及び石垣は保存する。
- ・最終放流口は石樋の上部に配置する。

<検討案>



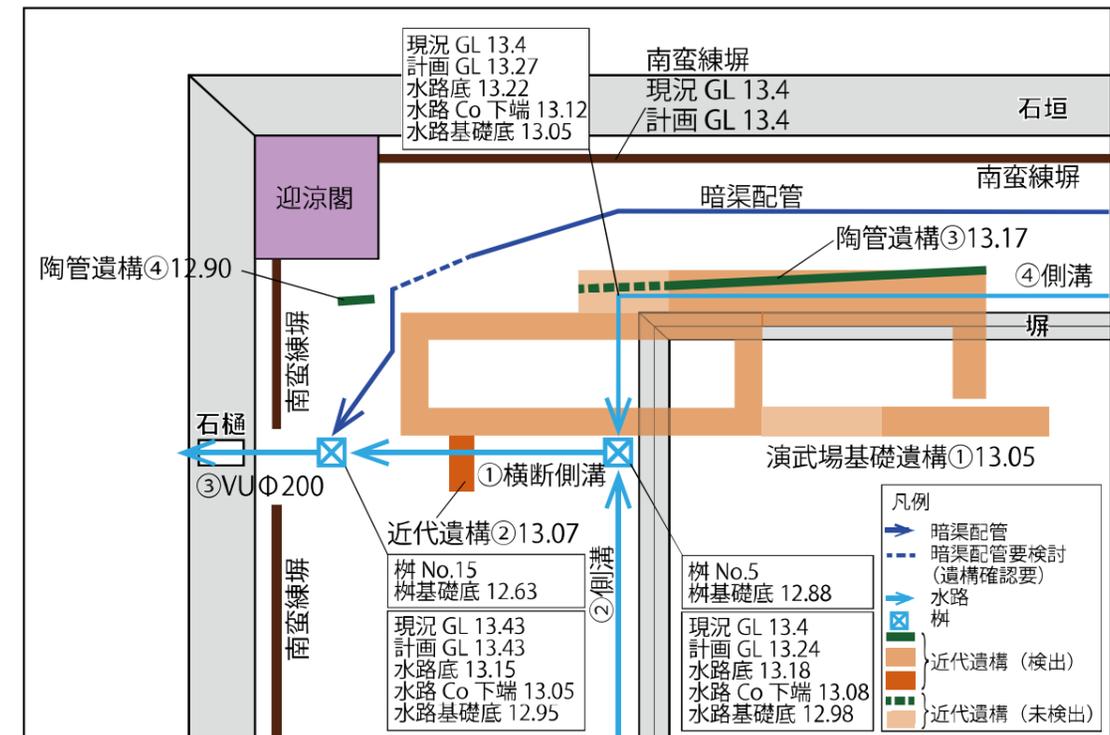
<検討案の概要>

| 排水施設種別 | 検討内容    |  |
|--------|---------|--|
| 水路     | ①横断側溝   | 近代遺構②(13.07)と交差するため、横断側溝(コンクリート)の下端高さが近代遺構面より高くなるように水路の高さを設定する。(水路勾配 i=0.3%) |
|        | ②側溝     | ①横断側溝に合わせた高さ設定とする。   |
|        | ③VUφ200 | 近世遺構より高くなるように水路の高さを設定する。   |
|        | ④側溝     | 陶管遺構③13.17よりも南側に排水経路を配置し、側溝の下端高さが演武場基礎遺構①13.05より高くなるように設定する。                 |
| 柵      | No.5    | 近世遺構より高くなるように柵の高さを設定する。  |
|        | No.15   | 近世遺構より高くなるように柵の高さを設定する。  |

<補助排水案>

演武場基礎遺構上に位置する④側溝は、水深が浅くなるため(水深5cm程度)、南蛮練堀と堀との間に補助的に暗渠管を敷設する。暗渠管の設置深さは、下流に行くに従い深くなるので、排水経路は、検出された遺構を避けて設定する。

なお、現在想定している経路で発掘調査未実施区間があるため、今後、発掘調査を行う際に排水経路及び排水方法を再検討する。

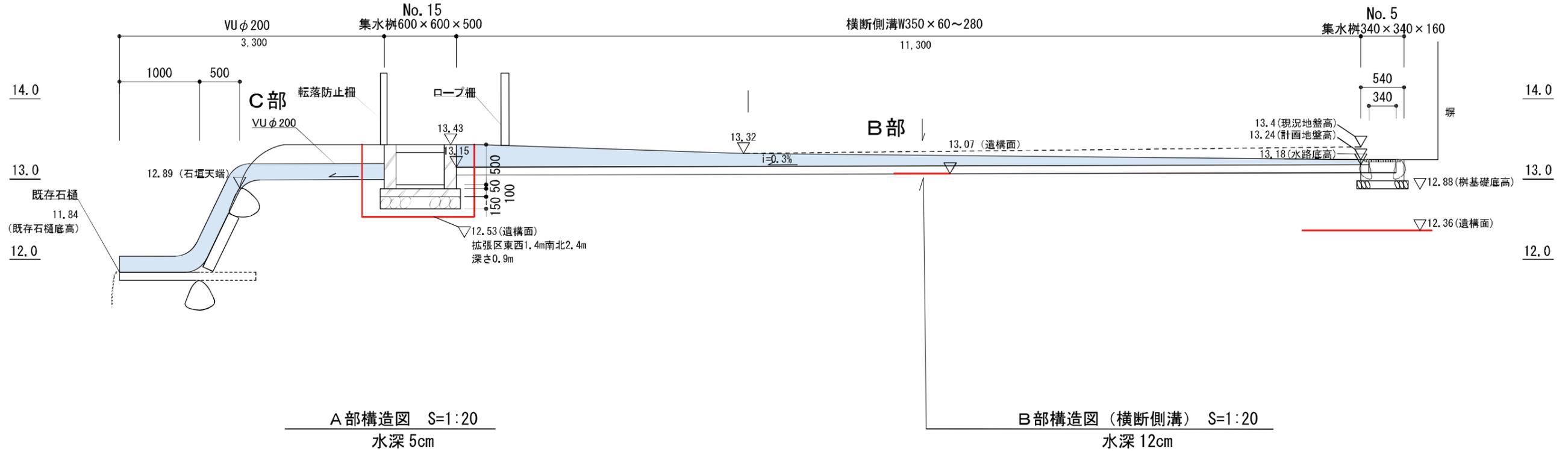


(2) 排水路の構造検討

<流末部の排水>

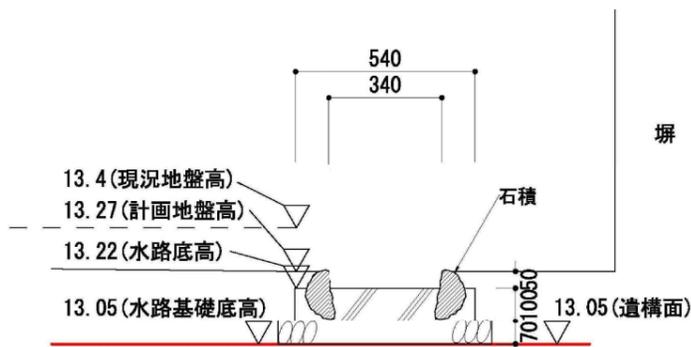
外縁部園路の表面排水は、塀際の水路に集水し、集水枳 (No.5) にて合流する。その後、横断側溝を経て最終枳 (No.15) に集水した後、堀に放流する。最終枳 (No.15) は、第 13 次発掘調査拡張区にて検出された近世遺構を保護した上で設置する。

流末部 排水縦断面図 S=1:50



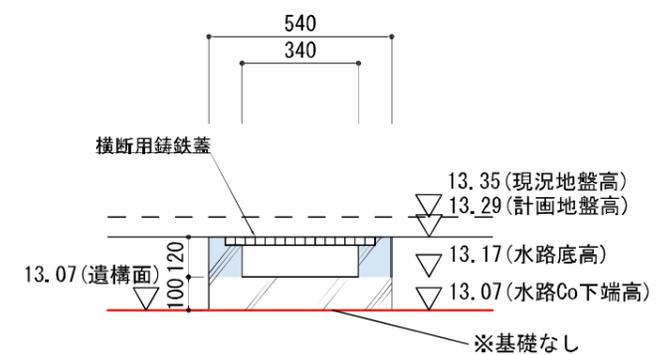
A部構造図 S=1:20  
水深 5cm

B部構造図 (横断側溝) S=1:20  
水深 12cm



<A部 (側溝)>

塀際の石積護岸側溝である。近代遺構面 (H=13.05) と交差するため、水深は 5cm、基礎厚は 7cm とする。



<B部 (横断側溝)>

外縁園路の横断側溝である。近代遺構 (H=13.07) と交差するため、水深は 12cm、基礎はなしとする。

< C部 (放流部) >

C部 (放流部) の構造について、下記の3案を検討した。  
今後の共通課題として、空堀部の流入施設及び水堀部 (北側) への排水施設の検討が必要である。

|                        |  |   |
|------------------------|--|---|
| <p>配管 (既存石樋保存) 案</p>   |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>石垣及び石樋は保存し、放流管 VU φ 200 を石垣及び石樋に沿わせて配置する。</li> <li>配管が露出となるものの、遺構への影響が最も少ない。</li> </ul>  |
| <p>配管 (既存石樋利用) 案</p>   |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>石樋直上の石板及び石 2 石を外し、放流管 VU φ 200 を最終柵から石垣背面を經由して既存石樋に沿わせて配置する。</li> <li>既存石樋の構造を調査した上で、既存石樋の上に側壁及び石板を組み立て石樋を復元的に整備する。</li> <li>石垣及び石垣背面の発掘調査が必要である。</li> </ul> |
| <p>石樋新設 (既存石樋保存) 案</p> |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>石垣及び石樋は保存し、その上部で南蛮練堀がない区間内 (L = 1.5 m) に新しく石樋を配置する。</li> <li>石垣の背面盛土部への設置であること、石樋の長さの約半分が張り出していることから、不安定な構造である。</li> </ul>                                   |



写真 1-1 石樋 (西より)



写真 1-2 石樋 (南より)



写真 1-3 石樋 (堀 GL 南より)

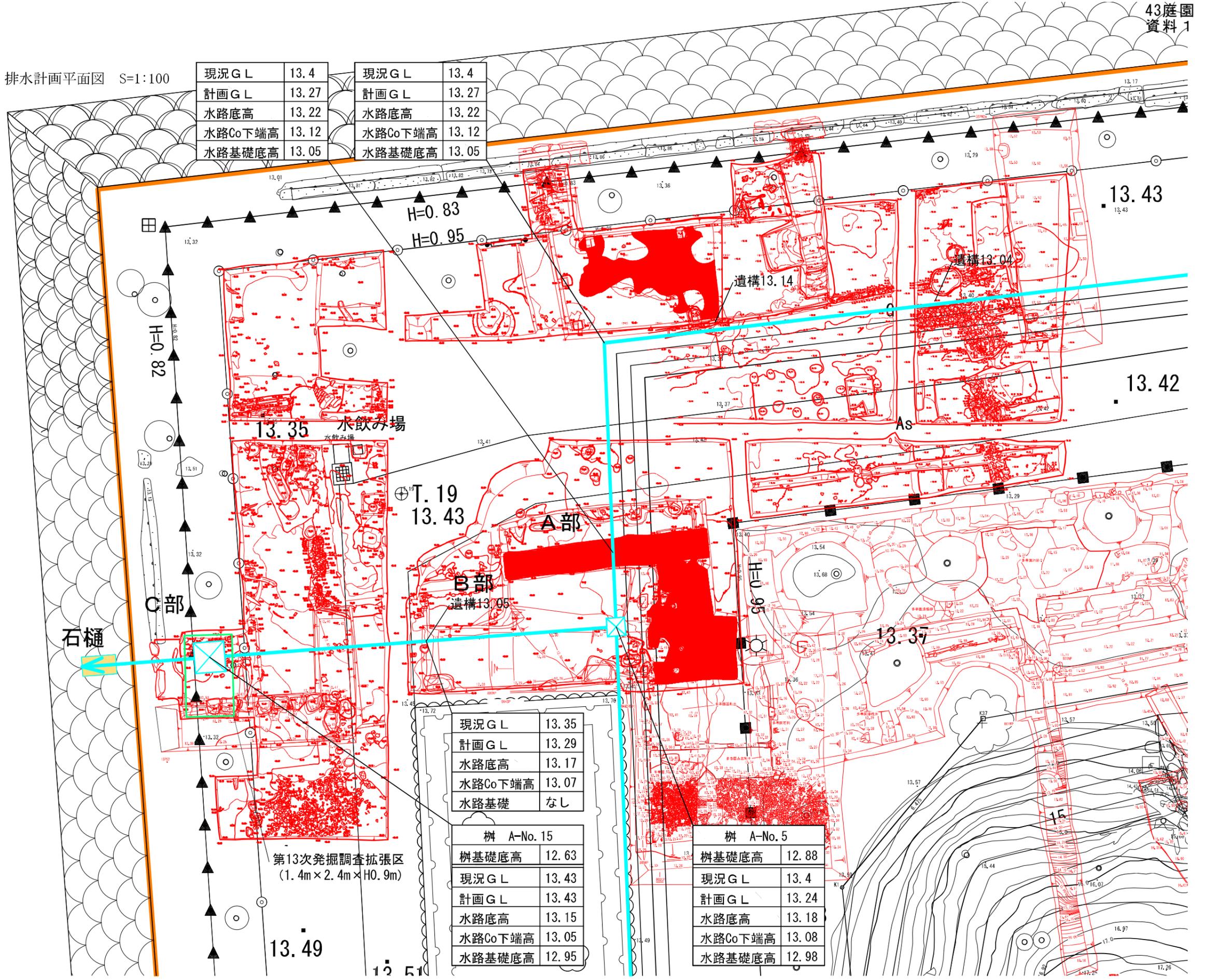


写真 1-4 第 13 次発掘調査石樋背面

(3) A流域流末部 排水計画平面図 S=1:100

ST. 1-2  
4.77

|         |       |         |       |
|---------|-------|---------|-------|
| 現況GL    | 13.4  | 現況GL    | 13.4  |
| 計画GL    | 13.27 | 計画GL    | 13.27 |
| 水路底高    | 13.22 | 水路底高    | 13.22 |
| 水路Co下端高 | 13.12 | 水路Co下端高 | 13.12 |
| 水路基礎底高  | 13.05 | 水路基礎底高  | 13.05 |



石樋

C部

13.35 水飲み場

T. 19  
13.43

A部

B部  
遺構13.05

H=0.95

13.37

第13次発掘調査拡張区  
(1.4m x 2.4m x H0.9m)

13.49

|         |       |
|---------|-------|
| 現況GL    | 13.35 |
| 計画GL    | 13.29 |
| 水路底高    | 13.17 |
| 水路Co下端高 | 13.07 |
| 水路基礎    | なし    |

|            |       |
|------------|-------|
| 樹 A-No. 15 |       |
| 樹基礎底高      | 12.63 |
| 現況GL       | 13.43 |
| 計画GL       | 13.43 |
| 水路底高       | 13.15 |
| 水路Co下端高    | 13.05 |
| 水路基礎底高     | 12.95 |

|           |       |
|-----------|-------|
| 樹 A-No. 5 |       |
| 樹基礎底高     | 12.88 |
| 現況GL      | 13.4  |
| 計画GL      | 13.24 |
| 水路底高      | 13.18 |
| 水路Co下端高   | 13.08 |
| 水路基礎底高    | 12.98 |

## 二之丸庭園の六角型燈籠について

### (1) 配置と構造検討の方針

配置は、御城御庭絵図における描かれ方を参考に、既設の余芳や延段、飛石、石造物及び余芳周辺の地割、石組、枝折戸や袖垣等の構造物、植栽との調和を考慮し、定める。

構造については、御城御庭絵図における描かれ方を参考に、大きさは基本的に、兼六園（写真2-1）のように最も典型的な「中」を6尺とし、「大」：7～8尺、「小」：5尺と想定し、形状は、絵図に描かれている特徴を持つ古材から選定する。また、名古屋城内猿面茶席周辺の六角型燈籠2基（写真2-2, 2-3）の寸法や形状も参考とし、余芳や建物周辺に設置する他の石造物との調和を考慮する。

### (2) 六角型燈籠の配置と形状の検討

#### ア 六角型燈籠-1

余芳の北西側で、枝折戸-1の南側に配置する。余芳建物に近く、現在施工中の景石が近傍にあるため、それらとの調和を図る。

形状については、高さ6～7尺程度、正面の火口が1箇所、中台が丸みを帯びた特徴を持つ古材を候補とする。

#### イ 六角型燈籠-2

余芳の南東側で、袖垣-2の南側に配置する。余芳建物に近く、現在施工中の景石や今年度施工予定の四角型燈籠が近傍にあるため、それらとの調和を図る。

形状については、高さ6尺程度、正面の火口が1箇所、中台が六角形の特徴を持つ古材を候補とする。

#### ウ 六角型燈籠-3

余芳の南側で、園路の交差部に配置する。周辺には、キササゲやサクラ大径木が植栽されるため、それらとの調和を図る。

形状については、高さが7尺程度、正面の火口が1箇所、中台が六角形の特徴を持つ古材を候補とする。

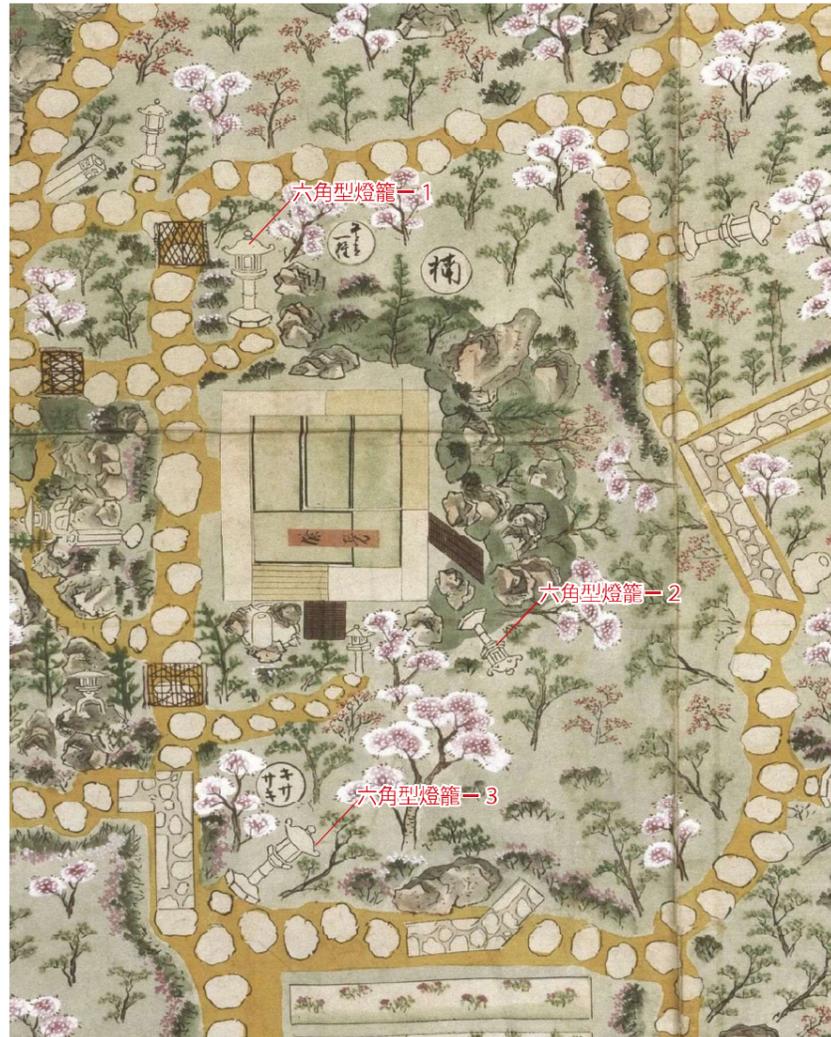


図 2-1 余芳周辺の六角型燈籠  
『御城御庭絵図』部分（名古屋市蓬左文庫所蔵）

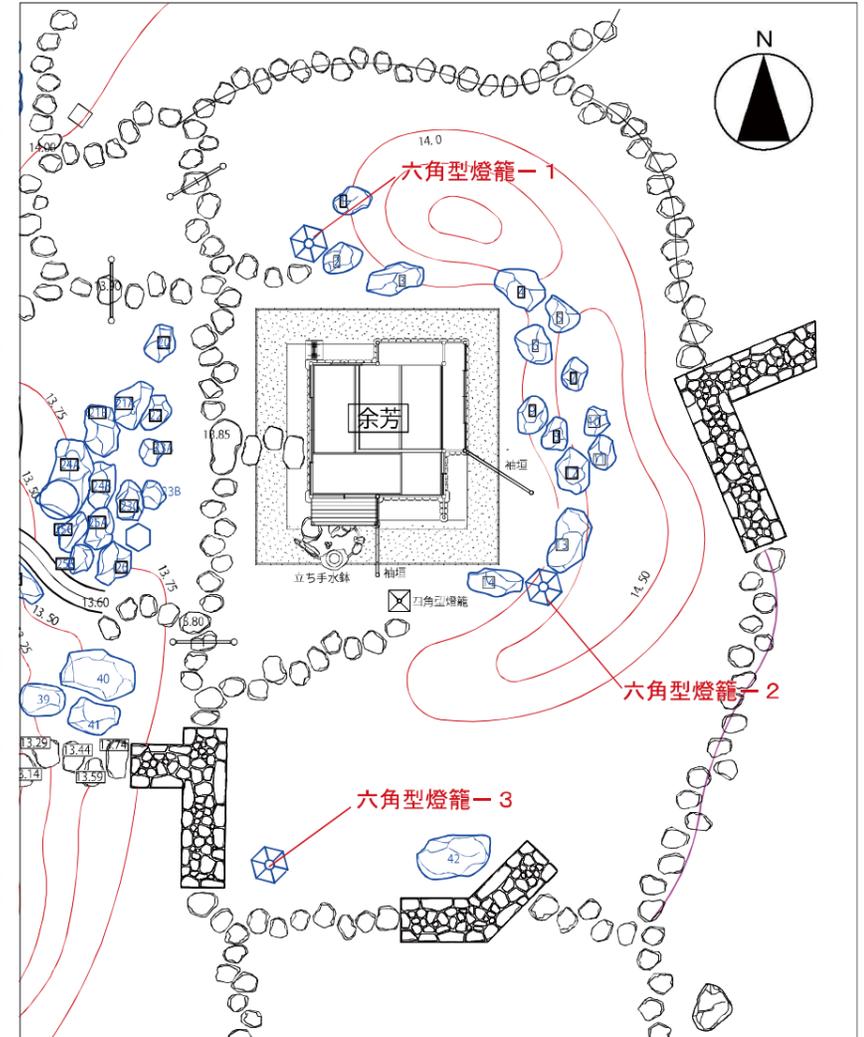


図 2-2 余芳平面図 S = 1 : 150



写真 2-1 六角型燈籠  
(兼六園 内橋亭)



図 2-3 六角型燈籠-1  
(参考図 34)



図 2-4 六角型燈籠-2  
(参考図 35)



図 2-5 六角型燈籠-3  
(参考図 36)

図 2-3 ~ 2-5 六角型燈籠-1 ~ 3  
『御城御庭絵図』部分（名古屋市蓬左文庫所蔵）

(3) 現存する名古屋城内の六角型燈籠

名古屋城内には2基の六角型燈籠が現存する。六角型燈籠を選定する際は、絵図の描かれ方とともに、これらの寸法及び形状を参考とする。

- ア 猿面茶席周辺 (写真 2-2)  
高さ約 210cm (6尺9寸)
- イ 猿面茶席周辺 (写真 2-3)  
高さ約 180cm (5尺9寸)



写真 2-2 六角型燈籠 (名古屋城猿面茶席付近)



写真 2-3 六角型燈籠 (名古屋城猿面茶席付近)

(4) 六角型燈籠の選定

ア 六角型燈籠-1

六角型燈籠-1は、余芳建物と今年度施工中の飛石や石組の配置との調和を考慮し、絵図を参考に選定する。

形状については、高さが6~7尺程度、正面の火口が1箇所で中台が丸みを帯びた特徴を持つ古材を候補とし、以下に古材の事例を示す。

表 2-1 古材事例の特徴

| 部位 | 特徴  |                       |
|----|---|-----------------------|
| 高さ | 5尺 : 事例1<br>5~6尺 : 事例2, 3<br>6~7尺 : 事例4<br>7尺以上 : 事例5 |                       |
| 宝珠 | 請花より大きい : 事例1, 2, 5                                   | 請花と同程度 : 事例3, 4       |
| 請花 | 1段 : 事例1~5  | 2段 : 事例5              |
| 笠  | ムクリが大きい : 事例1, 2, 4, 5                                | ムクリが小さい : 事例3         |
|    | 蕨手が大きい : 事例2, 5                                       | 蕨手が小さい : 事例1, 3, 4    |
|    | 降り棟が明瞭 : 事例2, 5                                       | 降り棟が不明瞭 : 事例1, 3, 4   |
| 火袋 | 火口が大きい : 事例4, 5                                       | 火口が小さい : 事例1, 2, 3    |
| 中台 | 六角形 : 事例1, 2, 3, 5                                    | 丸みを帯びる : 事例4          |
| 竿  | 節が明瞭 : 事例1, 2, 4, 5                                   | 節が不明瞭 : 事例3, 5        |
| 基礎 | 中央部の盛り上がり大きい : 事例3, 4, 5                              | 中央部の盛り上がり小さい : 事例1, 2 |



図 2-6 六角型燈籠-1 (参考図 34) 『御城御庭絵図』部分 (名古屋市蓬左文庫所蔵)



写真 2-4 六角型燈籠 古材事例1 (江戸初期 江州 5尺)



写真 2-5 六角型燈籠 古材事例2 (江戸中期 江州 5尺6寸)



写真 2-6 六角型燈籠 古材事例3 (江戸初期 江州 5尺6寸)



写真 2-7 六角型燈籠 古材事例4 (江戸末期 奈良石ホソ付 6尺8寸)



写真 2-8 六角型燈籠 古材事例5 (江戸末 江州 8尺)

イ 六角型燈籠-2

六角型燈籠-2の形状については、高さ6尺程度、正面の火口が1箇所、中台が六角形の特徴を持つ天祥院を選定する。

天祥院燈籠（写真2-9、2-10、図2-9）

来歴：花崗岩 高さ約190cm

銘「天祥院殿」ほか不明瞭

「□政十一己未年十二月廿日」（没年寛政11年（1799）か）

※「天祥院」は9代藩主宗睦（むねちか）の法名。

建中寺から払い下げられたものと思われる。

保管場所：名古屋城内

ウ 六角型燈籠-3

六角型燈籠-3の形状については、高さ7尺程度、正面の火口が1箇所、中台が六角形の特徴を持つ泰心院を選定する。

泰心院燈籠（写真2-9、2-10、図2-10）

来歴：花崗岩 高さ約240cm

銘「泰心院殿」ほか不明瞭

「元禄十二己卯年」（没年元禄12年（1699）か）

※「泰心院」は3代藩主綱誠（つななり）の法名。

建中寺から払い下げられたものと思われる。

保管場所：名古屋城内



写真2-9 天祥院燈籠（左）泰心院燈籠（右）  
現況写真（名古屋城内）



写真2-10 天祥院燈籠（左）泰心院燈籠（右）  
現況写真（名古屋城内）



（左135度回転）

図2-7 六角型燈籠-2

（参考図35）

『御城御庭絵図』部分（名古屋市蓬左文庫所蔵）

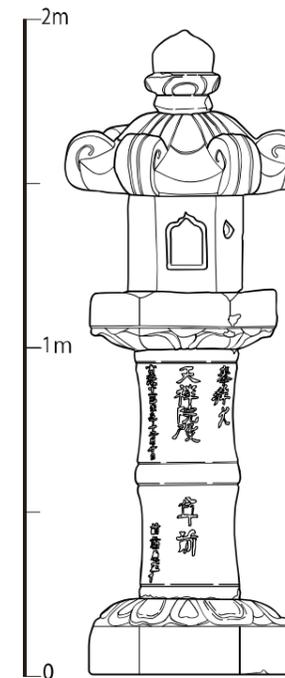


（左45度回転）

図2-8 六角型燈籠-3

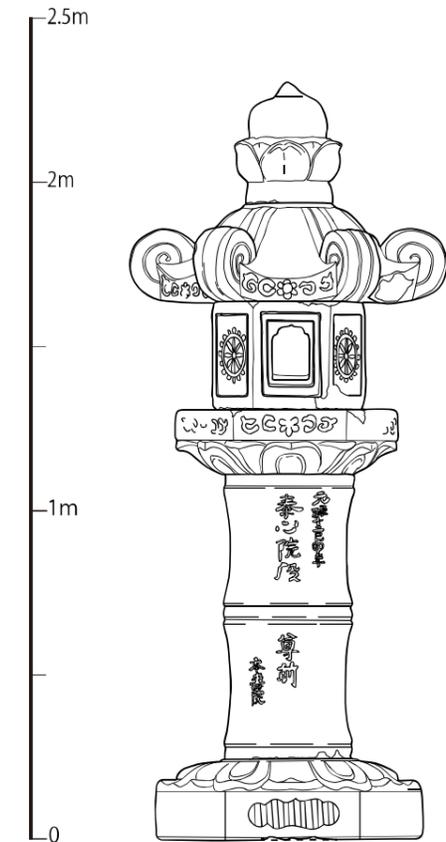
（参考図36）

『御城御庭絵図』部分（名古屋市蓬左文庫所蔵）



天祥院燈籠 立面図 正面 S=1:20

図2-9 天祥院燈籠（名古屋市所蔵）



泰心院燈籠 立面図 正面 S=1:20

図2-10 泰心院燈籠（名古屋市所蔵）